

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490500061	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん		
所在地	(〒 232-0057) 神奈川県横浜市南区若宮町 4 - 81 - 6		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ご入居者様には、いつも伸び伸びと生活していただけるように支援しています。その中でも、健康に留意しながら安心して安全に暮らせるホームづくりを心がけています。 ・生活の中で、ご入居者様一人一人が選択する力や、お気持ちを大切にしながらケアに取り組むことを常に目標としています。また、ご家族様が抱えているお気持ちや、希望を相談しやすい環境にしていけるために、小さなことでも日頃よりコミュニケーションの一環としてお伝えするようにしています。 ・家族様をはじめ、地域の方々へ常時開放した施設になるよう、また「ただいま」と帰ってこられるような温かいホームになるよう心がけています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月29日	評価機関 評価決定日	平成23年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 事業所所在地は横浜市直営地下鉄・弘明寺駅から約150m、鎌倉街道と呼ばれる大通りから100mほど入った横浜国立大付属中学校の敷地の隣にあり、周辺は閑静な住宅街である。3階建ての1階部分に小規模多機能型居宅介護・みのりの家が併設されている。グループホームは2階と3階部分にあり、2ユニット構成で定員18名が入居している。1階と2、3階は階段とエレベーターを使って自由に行き来でき、交流がある。建物内はバリアフリー構造であり、車イスや歩行に支障が無く安全である。 【明確な理念と目標の構築】 利用者のためのサービスを、どのように提供していくかを真摯に話し合い、それを事業所独自の理念にまとめ上げ、必要と思われる支援目標を半期ごとに掲げ、理念の共有と実践をしている点が秀逸である。「職員の笑顔」は利用者に安心感を与え「その人らしい生活を大事にする」ことで利用者から信頼を得られ「利用者に寄り添い共に過ごす」ことで心穏やかに一日を過ごしてもらえ、と考えている。これらの基本理念に、今期前半では「床が濡れていたら直ぐ拭くこと」「利用者の口腔は常にきれいに保つこと」の二つの具体的な目標を掲げて実践している。 【気づきによる工夫】 「利用者がこんな事に喜んでくれた」という職員の気づきから「足浴」を始めた。浴室での利用者の楽しそうな表情が印象的であった。ベランダにプランターを置いて、小さいながら花壇を備えたことで水やりや雑草取り、花つみなどの作業により利用者が役割を持つことができ、また、利用者の心に潤いを与えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん
ユニット名	2階 宮さん

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有するために各フロアへ理念を掲示しています。職員全員で相談したフロア理念を意識し、日々のケアに取り組んでいます。	法人が提唱する基本理念を元に職員が独自に話し合った理念「みんなの笑顔は食事から。おいしく、たのしく、健康に」がある。その他、短期における実施目標も随時、全員の話し合いで作成し、掲示している。簡単で覚えやすく、日常の支援に反映しやすい標語のようにして理念を意識できるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々をはじめ、突然の訪問や見学に対しても気軽に立ち寄ってもらえるようにいつでも解放しています。また、毎日の散歩の中で地域ケアプラザや、近隣の公園を利用しています。	3丁目・4丁目合同の町内会に加入し、四季折々の催事に参加し楽しんでいる。地区長を引き受け、地域の一員としての役割も果たしている。他の町内会からも行事への参加お誘いがあったり、小中学校生が太鼓演奏や職業訓練で来所するなど地域との交流の機会が多い。ボランティアの協力なども受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様の生活に配慮しながら地域からの相談・家族・ボランティア・見学者・介護実習生の受け入れなど、地域へ向けていつでも解放しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を3カ月に1回開催しています。情報交換を中心に、認知症に関する簡単な勉強会、避難訓練など実施しています。	会議は町内会及び老人会の代表、地域ケアプラザ所長、地区民生委員、生活相談員、利用者及びその家族と法人主任で構成される。直近では6月に開催され、話された内容について詳細な記録がとられている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村開催のセミナーへ参加呼びかけを職員はじめ地域に向けて行っています。また、事業所の状況を定期的に報告し、アドバイスを頂きながら運営しています。	市・区との連携は主に高齢福祉課、生活保護課、地域の病院などがあるほか、グループホーム連絡協議会へ参加している。南区から依頼を受け、新任研修の場として職員を受け入れている。昨年度は全館スプリンクラー設置の計画について連絡・相談をして、今年度の初期に設置が行われた。	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関やホールは解放してあります。職員全員が意識できるよう、全員で声を掛け合いながら防止しています。入居者様に自由に過ごしていただくことが身体拘束廃止につながる第一歩と考えています。	身体拘束は緊急時の一時的な事態を除き行わない旨を、契約時に明言している。今までに拘束を実施したことは無い。事業所内での施錠はしておらず、利用者の行動は至って自由である様子が見られた。職員による見守りが随時注意深く行われていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止手引きを読みあい、職員一人一人が虐待を正しく理解できるようにしています。また、虐待防止に関する研修にも職員が全員参加できるよう、外部研修・内部研修を実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて包括支援センターと協働するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には利用者、家族の疑問点を作らないように十分な説明をすると共に、どのような事でも質問できるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情はいつでも言えることを口頭、文章にて伝えています。窓口は担当を決め、第三者へ伝えたい場合は、公的窓口があることを文章にて掲示しており、迅速に対応し改善に努めています。	「もったいないから照明の電気を消したら」と、利用者の気遣いに恐縮した事例などがあり、利用者との会話から意見・要望を聞く機会が多くある。家族からの要望や意見も訪問時または電話などで随時聞けるほか、8月には紙面でのアンケートも実施していた。事業所関係者以外の人達と話せる機会として運営推進会議を活用している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の採用、運営方針、入居者の受け入れや、入居継続の可否については、各フロアの主任を中心に職員の意見を反映しながら検討しています。	日常での会話、職員が共有するフロアノートへの記述など、意見を表しやすい環境が整えられている。出された意見は主任らで検討され、今後の運営に反映される。夜勤職員からの朝の申し送りを具体的、詳細にしたことや、利用者起床時の見守りを一ヶ所で出来るよう、手順を工夫する提案などが実際に改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心は自分で持つものと日頃より伝えていきます。職員のいい点などは日頃より発見するように心がけています。改善すべき点は明確に伝え、一緒に考えていくように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の職務にマンネリ化を避けるため、また職員一人一人が向上心を持って働けるように管理者との個人面談（ヒヤリング）を実施しています。また、研修への参加を呼びかけ、年次計画をたてるなど職員が気軽に参加できる環境づくりにも努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本、神奈川、横浜市の各グループホーム協会に所属しています。できる限り研修、連絡会へ参加しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、ご本人の不安や、困っている事、希望等を十分な時間をかけて聞くように心がけています。利用後も安心できるまで継続的に支援しています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から、利用に至るまでご家族様の不安や悩み、求めている事を十分時間をかけて聞くようにし、混乱や気持ちの整理ができるようにお手伝いさせていただきます。ご本人様ともにより良い方向に考えられるよう継続的に支援いたします。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な選択肢を提示し、自己決定できるように支援します。電話相談でも、丁寧な対応を心がけています。市町村のサービス、介護保険サービス等公平な立場で説明するようにしています。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしていく中で、娘であり、また孫であり、時によき相談者となり喜怒哀楽を共有しながら、個々に合わせた時間をかけて信頼関係を作り上げるように努めています。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を定期的にお伝えしています。時間の制限なく面会を受け入れています。面会時には相談しやすいように職員は必ず声掛けを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間には制限はなく、いつでも来所可能になっています。電話等も、ご本人様の状況に合わせ取次ぎを行っています。	入居以前の状況や支えあう人々との関係を把握し、入居してからも関係を保つことを勧めている。電話、手紙、訪問などの支援を行っている。訪問する友人・知人も多く、電話での会話の機会も多い。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが出来ないことをフォローし合える状況ができています。必要に応じて職員が入ることで入居者同士の関係を構築できるように努めています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や、発言・行動の中からくみ取るように努めています。また、入居者様へ簡単なアンケートを実施しています。	何をしたいか、どの様にしたいか、誰に逢いたがっているかなどの思いを利用者の言葉以外からでも、表情や行動を観察して汲み取っている。訪問時には、職員が利用者のそばに寄り添い、やさしく声かけしながらコミュニケーションをとっていた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をできる限りご家族様や、ご本人からお聞きし、個人情報に注意しながら、職員間で共有するように努めています。日常の会話の中でも今までの暮らし方や、馴染みのものを知るようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイル、ペースを大切にし、生活が安定しているか、安心して暮らせているかなど、常に把握するように努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にかかわる関係者すべての情報を主とし、日々ケアに反映させています。また、情報は職員全員が共有しながらモニタリングを定期的に行い、計画作成担当者とケアプランの見直しを行っています。	見つけ出した個々の実状をリアルタイムで報告や意見として職員から主任に提出される。それらが介護計画見直しの原点となり、見直し時の根拠となる。昨年度に改善目標とした「モニタリングと評価の区別」も改善し、実行されている。「穏やかに安心して」暮らせるよう総合的援助の方針に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、言動を時間の制限なく介護記録に記入しています。また、記録を基にその人らしい介護計画になるように職員全員が意識して取り組んでいます。専門用語はなるべく使用しないように心がけています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに出来るだけ柔軟に対応できるように心がけています。また、ご本人様の状況を踏まえそれらのニーズに対して十分な検討、相談を行い、想いに添えるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物、ケアプラザの体操教室等、ご本人様が地域の住民として暮らせるよう、周囲の方々に支えてもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様への対応を中心とした、かかりつけ医への定期的な受診を必要に応じてお手伝いさせていただいています。受診前には、日頃の様子を細かくお伝えし、必要に応じて情報を提供しています。ご家族様の負担軽減も考え、都合の悪い時や、緊急時には職員での受診の対応を行っています。また、必要であれば、主治医の先生へお手紙を作成することもあります。	入居する前からのかかりつけ医で受診をしている利用者は18人中11人が多い。継続を希望する家族の要望に応え、それぞれの医師との連携で必要な支援を行っている。入居前に支援内容、方法等について話し合い、合意を得ている。受診内容や経過を家族に報告している。他の方は提携病院を受診したり、往診を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の確保。週に一回の看護士の訪問で、個々のかかりつけ医（主治医）への連携も図っています。また、看護士は馴染みの関係を構築するために、いつも同じ人が訪問します。また、定期的に看護と介護でのカンファレンスを行っています。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院に必ず伺い病状や今後の対応を確認するようにしています。また、ご家族様と相談の上で必要に応じてご家族様と一緒に担当医の話を伺い、本人の状態に合わせて施設での生活になるべく早くもどれるように支援しています。		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常の様子、変化を細かくご家族様へお伝えし必要に応じてかかりつけ医への相談を行っています。医療連携導入に伴い、重度化、終末期の指針を定め関係者と繰り返し相談を行いながら、一人一人を大切に思うチームケアに努めています。	事業所は「重度化・終末期ケア対応指針」で詳細に必要な時の対応方法を家族に説明している。また「看取り介護についての意向確認書」を用意して職員がターミナルケアに誠意を持って対処できる体制を整えている。なお、昨年度初めての看取りを経験した。	
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時の対応に関しては、マニュアルを完備。事例に対してのカンファレンスを職員と行い全職員での情報の共有をしている。また、外部研修への参加も行っています。		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会や、地域の消防署の情報交換に参加。定期的に避難訓練（夜間避難訓練）を実施。地域への参加も呼びかけ、お互いに助け合える体制ができるように努めています。	火災や自然災害時に速やかに避難させるための訓練を年に2回実施している。地域内の消防署及び自治会とも協同行っている。本年6月の訓練では夜間での災害を想定し、同時に消火器、自動通報装置、スプリンクラー等の定期点検、その操作法の研修も行った。災害時用の水、食料などは3日間分を目途に備蓄しており、いざという時の準備は整えられている。また、人数分のヘルメットも備えていた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し、その人にあったケアを日々心がけています。職員全員がご入居者様一人一人と信頼関係が構築できるよう全職員が取り組んでいます。	初期研修で学習した注意点について、日常業務の中で職員は意識的に対応している。個人情報の秘守、年長者への尊厳順守、静かな話しかけなどを徹底して、利用者にとって住みよい環境を提供することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、1対1のコミュニケーションが必ずとれるように心がけています。また、自己を表現することが難しくなっているご入居者様は、細かい様子や言動から読み取り、出来る限り自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間を通して、ご本人様のペース・リズムで生活ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ビューティーヘルパー（訪問理容）を導入しています。ご本人様のニーズに合わせて身だしなみが整うようにお手伝いをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など、一人一人の能力に応じて一緒に行っています。また、片づけでも、ご入居者様に負担にならないように配慮しつつ一緒に行っています。ご入居者様同士で作り上げた役割を大切にしながら、安全に行えるようにお手伝いします。毎食2名以上の職員と一緒に食べたり、家庭的な雰囲気づくりを心がけています。	事業所独自の理念にもある「おいしい食事を楽しく食べてもらう」ことで健康を維持できるよう、食材や調理にスタッフの思いを取り入れている。配膳や後片づけを、利用者個々が自主的に行える雰囲気を作っている。嚥下体操や食後の口腔清掃などを指導している。訪問日当日は職員と一緒に食べ、話しながら、さりげなく食事介助をしていた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に配慮しています。ご本人様の体調や状態、また季節的な時期も含めその人にあった量、形、盛りつけなどに気を付け支援しています。メニューは2週間ごとに職員が考案しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は毎食後に口腔ケアを行っています。能力に応じてお手伝いをします。中には生活習慣の異なる方もいらっしゃいますが、ご本人様とお話をしながら、清潔を保つように支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を設置。排尿・排便の把握に努めています。また、ご本人様の気持ちも配慮し、必要に応じた介助を行っています。	なるべくトイレでの排泄が続けられるよう、設備が安全に作られている。チェック表の他、表情や身体でのサインを見逃さず、さりげなく誘導する、失敗には寛容に対処し、必要に応じてリハビリパンツを使用するなどの配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活より、一人一人の習慣、周期を把握するように努めています。また、適度な運動と必要に応じて、ご家族様、看護師、かかりつけ医への相談を行いながら便秘予防と対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回～3回の入浴を行っています。また、それ以外でも希望があったときはいつでも入浴ができるよう努めています。	入浴の方法、部分浴かシャワーかの選択のほか、回数を多く希望する方に対しても対応している。入浴したがない方に対しては、それぞれに何か原因があると考え、それを探ることで概ね解決ができています。出来るだけ気長に対応するようにしている。浴場での同性介助に職員の配慮がみられる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の生活習慣を大切に、ご本人様のペースで、いつでも休息をとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、各フロアの主任を中心に薬の管理、把握を行っています。また、薬の変化、用途、副作用に関しても知るように努めています。薬の情報に関しては、常に最新のものが見やすいように管理されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活していただけるように、出来ることは自分で行えるように支援します。また、自然にできた役割や楽しみごとを大切に、その人が役割や活動がより楽しめるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をできる限り尊重し、外に出たい希望があれば出かけられるように支援しています。その時に、出られない場合には、予定を伝え出かけられる日を検討します。約束を守りながら、ご本人様の気持ちを大切にしています。また、外食レクや、ドライブなどの機会をつくり、少しでも生活が楽しめるように努めています。	日常の外出は散歩や買い物などがあり、気分転換が出来る。積極的に勧め、支援している。季節に合わせた外出、回転寿司やファミリーレストランでの食事など、個々の希望で行きたい所への外出支援も行われている。家族からの希望で外泊をされる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりして、所定の場所で管理しています。また、買い物などの際には、希望に応じてお金を使えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも希望があればやり取りができるように支援します。届いた郵便物は、直接ご本人様に手渡しを行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは、誰でもがいつでも使いやすいよう綺麗に保たれています。各フロアの特徴を活かし、活動で作成したものを飾り季節感を取り入れたり、写真を飾るなど工夫をしています。	個室以外の共有空間として利用できるスペースは多目的に使われている。広い廊下は軽い運動のできる場として、壁は作品や写真の掲示に、奥まった一画を寛ぎの道具を備えた居間としている。また、ベランダにプランターを置いて草花を育てるなど、工夫された構造に家庭的な雰囲気を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人のお部屋以外はオープンスペースになっています。その中でもお気に入りの場所が見つかるよう椅子をおいたりと環境をつくる工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際安全に配慮した過ごしやすい環境をつくって頂いています。ご本人様を使い慣れた物、好みのものを活かし自由に居心地いい環境をご本人、ご家族様と相談しながら工夫しています。	居室は自分の家としての使用がされている。寝具、家具をはじめ、各自が好みの品を持ち込んで生活している。線香や蝋燭などの火の気は禁止であるが、仏壇を持ち込まれている利用者もいる。どの部屋も明るく清潔が保たれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様に使用する日常家具などは安全で快適な物を考え配慮しています。ご自分で出来ることを大切に考え、安心して安全に生活できるよう努めています。失敗や混乱は避けることなく支援するように努め、ご本人のわかる力を大切にし、一緒に解決策を見つけるようにしています。職員間では、混乱してしまうケースを予測するようにし、安心できる環境を全員で考えています。		

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490500061	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん		
所在地	(〒 232-0057) 神奈川県横浜市南区若宮町 4 - 81 - 6		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工口数	2工口
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者様には、いつも伸び伸びと生活していただけるように支援しています。その中でも、健康に留意しながら安心して安全に暮らせるホームづくりを心がけています。生活の中で、ご入居者様一人一人が選択する力や、お気持ちを大切にしながらケアに取り組むことを常に目標としています。また、ご家族様が抱えているお気持ちや、希望を相談しやすい環境にしていくために、小さなことでも日頃よりコミュニケーションの一環としてお伝えするようにしています。が家族様をはじめ、地域の方々へ常時開放した施設になるよう、また「ただいま」と帰ってこれるような温かいホームになるよう心がけています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月28日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん
ユニット名	3階 宮さん

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有するために各フロアへ理念を掲示しています。職員全員で相談したフロア理念を意識し、日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々をはじめ、突然の訪問や見学に対しても気軽に立ち寄ってもらえるようにいつでも解放しています。また、毎日の散歩の中で地域ケアプラザや、近隣の公園を利用しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様の生活に配慮しながら地域からの相談・家族・ボランティア・見学者・介護実習生の受け入れなど、地域へ向けていつでも解放しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を3カ月に1回開催しています。情報交換を中心に、認知症に関する簡単な勉強会、避難訓練など実施しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村開催のセミナーへ参加呼びかけを職員はじめ地域に向けて行っています。また、事業所の状況を定期的に報告し、アドバイスを頂きながら運営しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関やホールは解放してあります。職員全員が意識できるよう、全員で声を掛け合いながら防止しています。入居者様に自由に過ごしていただくことが身体拘束廃止につながる第一歩と考えています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止手引きを読みあい、職員一人一人が虐待を正しく理解できるようにしています。また、虐待防止に関する研修にも職員が全員参加できるよう、外部研修・内部研修を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて包括支援センターと協働するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には利用者、家族の疑問点を作らないように十分な説明をすると共に、どのような事でも質問できるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情はいつでも言えることを毛頭、文章にて伝えていきます。窓口は担当を決め、第三者へ伝えたい場合は、公的窓口があることを文章にて掲示。迅速に対応し改善に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の採用、運営方針、入居者の受け入れや、入居継続の可否については、各フロアの主任を中心に職員の意見を反映しながら検討しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心は自分で持つものと日頃より伝えていきます。職員のいい点などはひごろより発見するように心がけています。改善すべき点は明確に伝え、一緒に考えていくように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の職務にマンネリ化を避けるため、また職員一人一人が向上心を持って働けるように管理者との個人面談（ヒヤリング）を実施。また、研修への参加を呼びかけ、年次計画をたてるなど職員が気軽に参加できる環境づくりに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本、神奈川、横浜市グループホーム協会に所属しています。できる限りの研修、連絡会へ参加しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談からりように至るまで、ご本人の不安や、困っている事、希望等を十分な時間をかけて聞くように心がけています。利用後も安心できるまで継続的に支援しています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から、利用に至るまでご家族様の不安や悩み、求めている事を十分時間をかけて聞くようにし、混乱や気持ちの整理ができるようにお手伝いさせていただきます。ご本人様ともにより良い方向に考えられるよう継続的に支援いたします。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な選択肢を提示し、自己決定できるように支援します。電話相談でも、丁寧な対応を心がけています。市町村のサービス、介護保険サービス等公平な立場で説明するようにしています。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしていく中で、娘であり、また孫であり、時により相談者となり喜怒哀楽を共有しながら、個々に合わせた時間をかけて信頼関係を作り上げるように努めています。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を定期的にお伝えしています。時間の制限なく面会を受け入れています。面会時には相談しやすいように職員は必ず声掛けを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間には制限はなく、いつでも来所可能になっています。電話等も、ご本人様の状況に合わせ取次ぎを行っています。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが出来ないことをフォローし合える状況ができています。必要に応じて職員が入ることに入居者同士の関係を構築できるように努めています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や、発言・行動の中からくみ取るように努めています。また、入居者様へ簡単なアンケートを実施。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をできる限りご家族様や、ご本人からお聞きし、個人情報に注意しながら、職員間で共有するように努めています。日常の会話の中でも今までの暮らし方や、馴染みのものを知るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイル、ペースを大切にし生活が安定しているか、安心して暮らせているかなど、常に把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にかかわる関係者すべての情報を主とし、日々ケアに反映させています。また、情報は職員全員が共有しながらモニタリングを定期的に行い、計画作成担当者とケアプランの見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、言動を時間の制限なく介護記録に記入しています。また、記録を基にその人らしい介護計画になるように職員全員が意識して取り組んでいます。専門用語はなるべく使用しないように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに出来るだけ柔軟に対応できるように心がけています。また、ご本人様の状況を踏まえそれらのニーズに対して十分な検討、相談を行い、想いに添えるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物、ケアプラザの体操教室等、ご本人様が地域の住民として暮らせるよう、周囲の方々に支えてもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様への対応を中心とした、かかりつけ医への定期的な受診を必要に応じてお手伝いさせていただいています。受診前には、日頃の様子を細かくお伝えし、必要に応じて情報を提供しています。ご家族様の負担軽減も考え、都合の悪い時や、緊急時には職員での受診の対応を行っています。また、必要であれば、主治医の先生へお手紙を作成することもあります。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の確保。週に一回の看護師の訪問で、個々のかかりつけ医（主治医）への連携も図っています。また、看護師は馴染みの関係を構築するために、いつも同じ人が訪問します。また、定期的に看護と介護でのカンファレンスを行っています。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院に必ず伺い病状や今後の対応を確認するようにしています。また、ご家族様と相談の上で必要に応じてご家族様と一緒に担当医の話を伺い、本人の状態に合わせて施設での生活になるべく早くもどれるように支援しています。		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常の様子、変化を細かくご家族様へお伝えし必要に応じてかかりつけ医への相談を行っています。医療連携導入に伴い、重度化、終末期の指針を定め関係者と繰り返し相談を行いながら一人一人を大切に思うチームケアに努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時の対応に関しては、マニュアルを完備。事例に対してのカンファレンスを職員と行い全職員での情報の共有をしている。また、外部研修への参加も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会や、地域の消防署の情報交換に参加。定期的に避難訓練（夜間避難訓練）を実施。地域への参加も呼びかけ、お互いに助け合える体制ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し、その人にあったケアを日々心がけています。職員全員がご入居者様一人一人と信頼関係が構築できるよう全職員が取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、1対1のコミュニケーションが必ずとれるように心がけています。また、自己を表現することが難しくなっているご入居者様は、細かい様子や言動から読み取り出来る限り自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間を通して、ご本人様のペース・リズムで生活ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ビューティーヘルパー（訪問理容）を導入しています。ご本人様のニーズに合わせて身だしなみが整うようにお手伝いをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など、一人一人の能力に応じて一緒に行っています。また、片づけでも、ご入居者様に負担にならないように配慮しつつ一緒に行っています。ご入居者様同士で作り上げた役割を大切にしながら、安全に行えるようにお手伝いします。毎食2名以上の職員と一緒に食べたり、家庭的な雰囲気づくりを		

			心がけています。		
--	--	--	----------	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に配慮しています。ご本人様の体調や状態、また季節的な時期も含めその人にあった量、形、盛りつけなどに気を付け支援しています。メニューは2週間ごとに職員が考案しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は毎食後に口腔ケアを行っています。能力応じてお手伝いをします。中には生活習慣の異なる方もいらっしゃいますがご本人様とお話をしながら、清潔を保つように支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を設置。排尿・排便の把握に努めています。また、ご本人様の気持ちも配慮し必要に応じた介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活より、一人一人の習慣、周期を把握するように努めています。また、適度な運動と必要に応じて、ご家族様、看護師、かかりつけ医への相談を行いながら便秘予防と対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回～3回の入浴を行っています。また、それ以外でも希望があったときはいつでも入浴ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の生活習慣を大切に、ご本人様のペースで、いつでも休息をとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、各フロアの主任を中心に薬の管理、把握を行っています。また、薬の変化、用途、副作用に関しても知るよう努めています。薬の情報に関しては、常に最新のものが見やすいように管理されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活していただけるように出来ることは、自分で行えるように支援します。また、自然にできた役割や楽しみごとを大切に、その人が役割や活動がより楽しめるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をできる限り尊重し、外に出たい希望があれば出かけられるように支援しています。その時に、出られない場合には、予定を伝え出かけられる日を検討します。約束を守りながら、ご本人様の気持ちを大切にしています。また、外食レクや、ドライブなどの機会をつくり、少しでも生活が楽しめるように努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりして、所定の場所で管理しています。また、買い物などの際には、希望に応じてお金を使えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも希望があればやり取りができるように支援します。届いた郵便物は、直接ご本人様に手渡しを行っています。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは、誰でもがいつでも使いやすいよう綺麗に保たれています。各フロア特色を活かし、活動で作成したものを飾り季節感を取り入れたり、写真を飾るなど工夫をしています。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人のお部屋以外はオープンスペースになっています。その中でもお気に入りの場所が見つかるよう椅子をおいたりと環境をつくる工夫をしています。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際安全に配慮した過ごしやすい環境をつくって頂いています。ご本人様が使い慣れた物、好みのものを活かし自由に居心地いい環境をご本人、ご家族様と相談しながら工夫しています。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様に使用する日常家具などは安全で快適な物を考え配慮しています。ご自分で出来ることを大切に考え、安心して安全に生活できるよう努めています。失敗や混乱は避けることなく支援するように努め、ご本人のわかる力を大切に一緒に解決策を見つけるようにしています。職員間では、混乱してしまふケースを予測するようにし、		

			安心できる環境を全員で考えています。		
--	--	--	--------------------	--	--